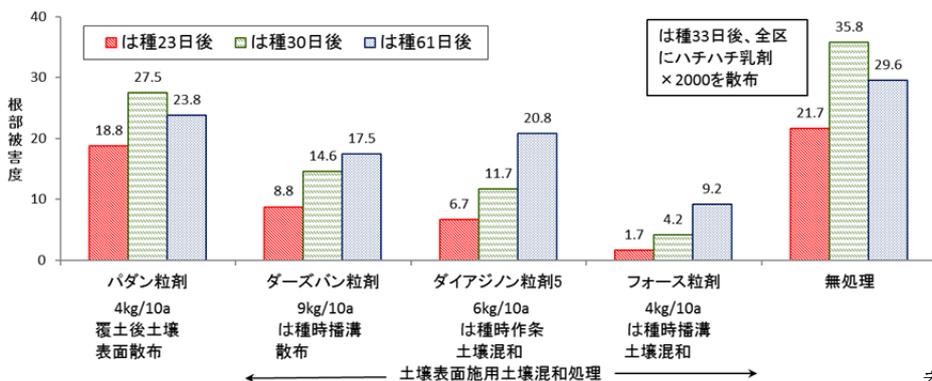


だいこんキスジノミハムシ多発時での防除体系（追補） ～ 粒剤の上手な使い方 ～

【1 成果概要】

- だいこんの根部を加害するキスジノミハムシの防除において、は種時に使用する粒剤はフォース粒剤が最も効果が優れています（図1）。フォース粒剤は、成分がガス化することで効果がでるので、地下3cm程度～地表面近くのところに施用するとガス化が促進され効果が安定します（図2）。
- だいこん生育途中に粒剤を施用する場合はダイアジノン粒剤5が優れていますが、粒剤のみでは被害を抑えきれないため、茎葉散布との組み合わせが必要です（図2）。



参考図 キスジノミハムシ成虫

図1 是種時に施用する各粒剤のキスジノミハムシ防除効果 (H26 北上市農研Cほ場)

※数字が小さいほど効果が優れる。図2も同じ

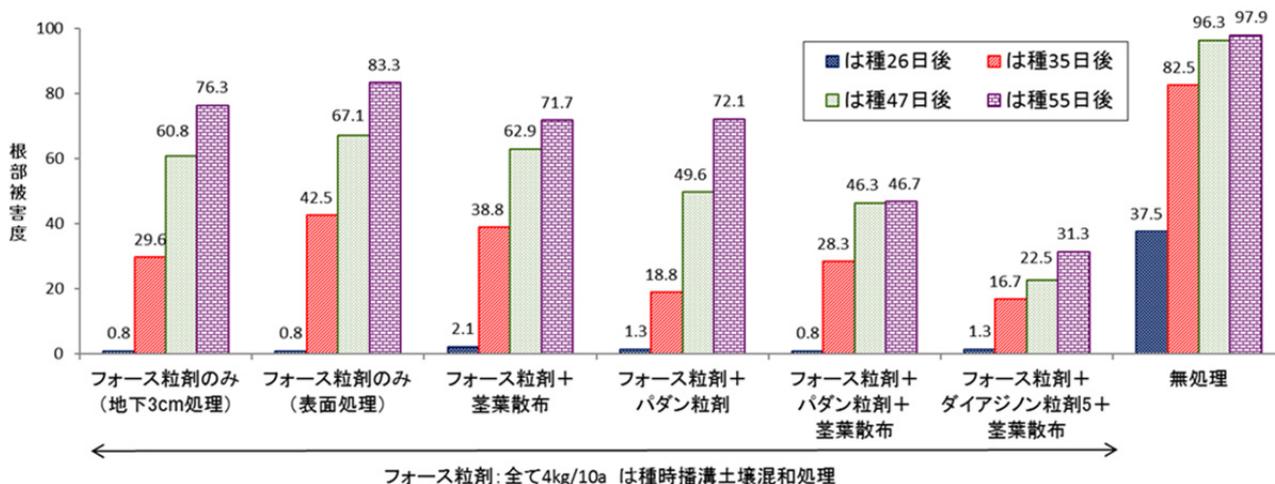


図2 キスジノミハムシ防除体系別の被害程度 (H26 北上市農研Cほ場)

図2 留意事項

- 無処理を除く区には、は種時にフォース粒剤のみを使用
- 生育途中の粒剤（ばダン粒剤、ダイアジノン粒剤5）は、は種20日後に施用
- 茎葉散布をした区は、は種29日後からハチハチ乳剤→モスピラン顆粒水溶剤→サイアノックス乳剤の順に6日間隔で散布

【2 留意事項】

- 茎葉散布剤の効果は研究レポート No.721 (H25) に記載しています。併せてご覧下さい。